国土交通省　東北地方整備局
青森河川国道事務所
Aomori office of river & National highway

記者発表
Press Release

令和８月６月２２日
青森河川国道事務所

岩木川で小学生と一緒に水生生物調査を行います！

～私たちの川はきれいかな？生息状況で水質を判定～

国土交通省では、川の生きものを指標として河川の水質を総合的に評価するため、地域の皆様のご協力を頂き『全国水生生物調査』を実施しています。
青森河川国道事務所において、弘前市立大成小学校の児童とともに下記の日程で実施します。
併せて、川で安全に気をつけながら楽しく遊んで欲しいとの思いを込めた学習会も行います。

【日　時】
令和８年６月３０日(火)　９：３０～１１：００

【場　所】
岩木川**「弘前水辺プラザ」**（弘前市大字和田町地先）
※天候や河川の水位の状況等により、屋外活動ができない場合は、
「弘前地区防災ステーション」（弘前市大字和田町地内）内で一部内容を変更して実施

【参加校】
弘前市立大成小学校（４学年２７名の参加予定）

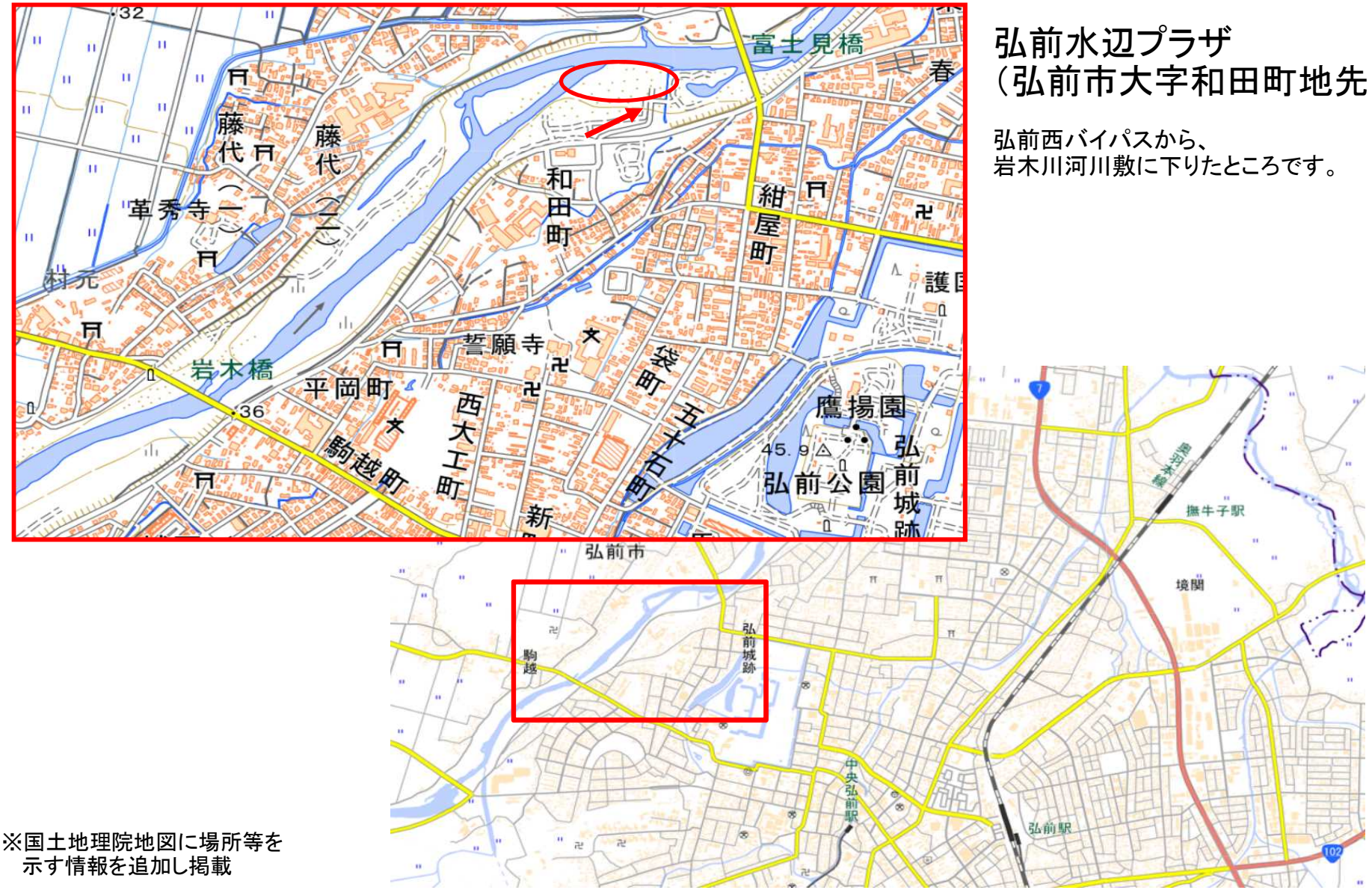
(1)調査概要
○サワガニ、カワゲラ類等の水生生物が生息しているかどうかで水質を判定
○子どもたちにもわかりやすく、特別な機材を用いないため、誰でも簡単に参加可能
○身近な自然環境に接することで、身近な環境問題への関心を高める良い機会
○昭和 59 年度から国土交通省・環境省が実施

(2)調査方法
○河川に生息する水生生物のうち、[1]全国各地に広く分布し、[2]分類が容易で、[3]水質に係る指標性が高い、29 種の指標生物を調査
○河川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点ごとに、I（きれいな水）、II（ややきれいな水）、III（きたない水）、IV（とてもきたない水）の４階級で水質の状況を判定
○川の生きものを調べよう －水生生物による水質判定－　[調査テキスト]
https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/suisituhantei/text.pdf

≪発表記者会：青森県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社≫

問い合わせ先
国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所
青森市中央三丁目２０－３８　ＴＥＬ０１７－７３４－４５２１（代表）
副所長（河川担当）　武田（たけだ）　桂輔（けいすけ）（２０４）
河川占用調整課長　畠山（はたけやま）　昇（のぼる）　（３４１）

案内図



弘前水辺プラザ
（弘前市大字和田町地先）

弘前西バイパスから、
岩木川河川敷に下りたところです。

※国土地理院地図に場所等を
　示す情報を追加し掲載

※天候、河川の水位等の状況により、屋外活動ができない場合場所を変更します。
案内図



弘前地区防災ステーション（弘前市和田町地内）

弘前西バイパス沿いにあります。
案内看板があります。

※天候、河川の水位等の状況により、屋外活動ができない場合、実施場所を変更します。また、一部内容を変更します。

※国土地理院地図に場所等を示す情報を追加し掲載

過去の実施状況



川での安全について説明



パックテストによる簡易水質検査



ライフジャケットを着用し、安全を確保した上で調査開始



川に入り、水生生物を採集





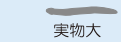
採集した水生生物が、どのような水質で生息する生物なのかを調べることにより、水質を判定します。

川の生きものを調べよう

水生生物による水質判定

Ⅰ きれいな水

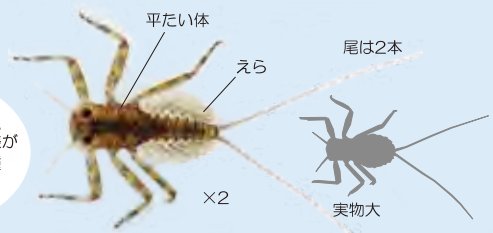






ナミウズムシ

石の表面にはりついていて、伸び縮みする
中・下流部には外来種がいることがある



ヒラタカゲロウ類

流れの速い石の表面にはりついている



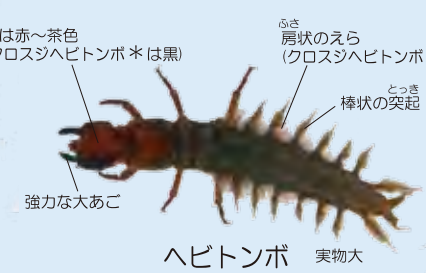
カワゲラ類

体ががんじょうな感じがする
石の下やすき間にいる



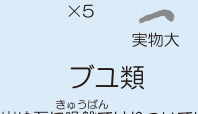
サワガニ

体色は赤色、茶色、青白色のものがいるが、
同じ種類である



ヘビトンボ

流れの速い石の下にひそんでいて、
えものをおそう





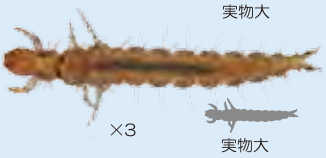
ブユ類

急流の岩や石に吸盤ではりついている
集団をつくり、石が黒く見えることもある

アミカ類

腹面に吸盤があり、急流の岩や石に
はりついている





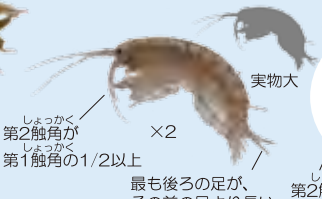
ナガレトビケラ類

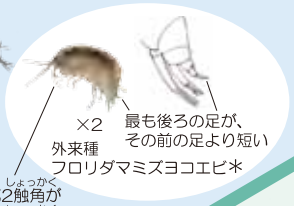
流れの速いところにいる



ヤマトビケラ類

流れの少しゆるやかなところの石面に多い





ヨコエビ類

上流の石の下や水中に
たまった落葉の間にいる



タニガワカゲロウ類

体はヒラタカゲロウ類に似ている
流れの速いところにいる



チラカゲロウ

流れのやや速いところにいる



ヒゲナガカワトビケラ類

流れの速い石の間に網をはってえさを集める
体色は茶～黒色

Ⅰ，Ⅱ両方でみられる水生生物
（指標種ではない）

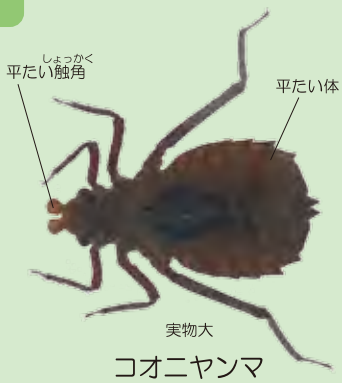
Ⅱ ややきれいな水





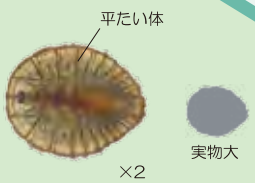
カワニナ類

流れの少しゆるやかなところにいる
外来種のコモチカワツボ＊は数mmと小型



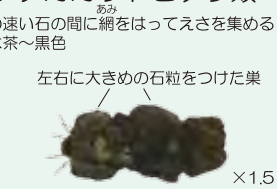
コオニヤンマ

流れが少しゆるやかなところにいる



ヒラタドロムシ類

石の表面にはりついている



ニンギョウトビケラ類

流れが少しゆるやかなところ
の石面にいる



コガタシマトビケラ類

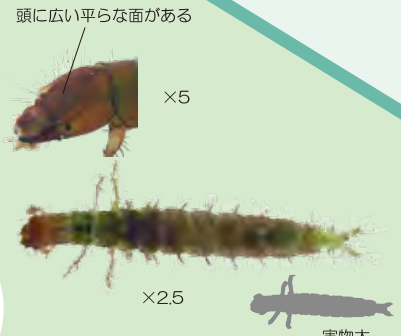
頭部の前縁に浅い凹みがある



ゲンジボタル

流れが少しゆるやかなところにいる
カワニナをえさとする



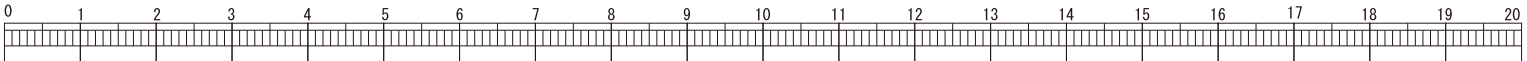


オオシマトビケラ

流れが少し速いところにいる

＊のついている生物はよく似ていますが指標種（水質判定に使う水生生物）ではありません。

平成23年度版



Ⅲ きたない水



ミズムシ

落葉のあるところではきれいな水にもいる



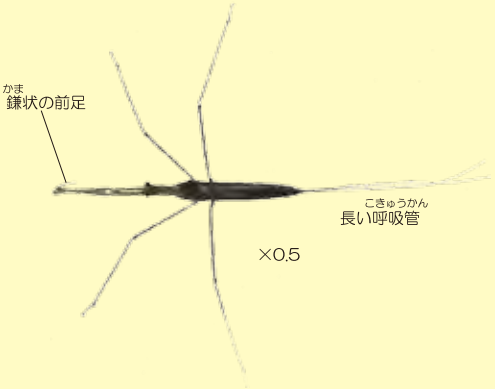
シマイシビル

背中に縦縞模様がある
伸びたり縮んだりする
尾の先に吸盤がある



タニシ類

流れのゆるやかなところにいる



ミズカマキリ

川では川岸の草の中などにいる

Ⅳ とてもきたない水



エラミミズ

尾部にえらがある
流れのゆるやかなところにいる



サカマキガイ

多くの巻貝と違い、左巻き
流れのゆるやかなところにいる



アメリカザリガニ

北アメリカ原産の外来種
流れのゆるやかなところにいる



ユスリカ類

腹部に2対（4本）または1対（2本）のひも状のえらがある
瀬でみられる赤いユスリカはセスジユスリカやハイイロユスリカが多い



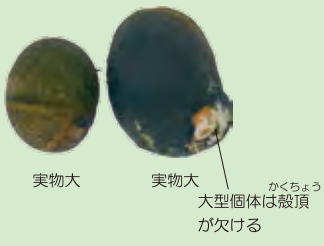
チョウバエ類

尾部、腹部背面にかたい部分（キチン板）がある

汽水域（海水が混じっているところ）

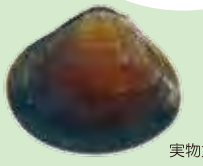
Ⅱ ややきれいな水





イシマキガイ

石や護岸にはりついている
淡水域にいることもある



ヤマトシジミ

砂や泥の中にいる
淡水域にはマシジミ＊や外来種のタイワンシジミ＊がいる

Ⅲ きたない水



イソコツブムシ類

石の下にいる
さわると丸くなる

ニホンドロソコエビ

泥の上や中にいる
河川の上・中流部にも淡水性のヨコエビ類がいる

＊のついている生物はよく似ていますが指標種（水質判定に使う水生生物）ではありません。

